



関係の大切さも実感しました。

また、学校とは違う職場での人間関係の大切さも実感しました。

今でも忘れることができません。

自分が袋詰めしてくれた食品をお客様が手にとり買ってくれた時の感激は、

ながら取り組むようになりまし

実際に店側の立場となった時には、

どのような行動が必要かを常に考え

作業手順を覚えるにつれ、自分が

目まで、総菜売り場で主に食品の袋

詰め作業をしました。

山交百貨店(甲府市)にて

デパートで

袋詰めを体験

インターンシップ3日目から7日

Internship  
高校生のインターンシップ  
甲府市立  
甲府商業高校

平成12年度に文部科学省の研究指定を受け、平成13年度からインターンシップを実施しています。今年度は、96名(うち1年生が67名)が参加しました。希望が多い事業所は、パン屋さんや保育園です。事業所の担当者の方を招いて開催するインターンシップ報告会では、感謝した体験談や苦労話などで盛り上がります。また、実際にインターンシップを体験した企業に就職する生徒もいます。



近年、少子化の進展、団塊の世代の大量退職などの影響により、企業では若年労働者の安定的な確保が大きな課題となっています。また一方で、企業と学生が希望する職種とのミスマッチなどによる早期離職者、フリーターやニートなどの若者が増加しています。

その背景の一つとして、若者の仕事に対する考え方の希薄化、多様化があげられています。

このため、生徒たちが明確な目的意識を持ち、日々の勉強に取り組むとともに、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観、職業観を身に付け、社会人・職業人として自立することを手助けする教育が求められています。

このような中、県内の多くの高校では、インターンシップなどの事業に取り組んでいます。

Go! Go!

【特集2】輝く夢に向かって!!!  
Internship  
高校生のインターンシップ



社会人・職業人として自立する力を培う「インターンシップ」

一定期間、実際に職場で仕事を体験する「インターンシップ」。これは、「就業体験」を通じて、職業を身近に感じ、望ましい勤労観・職業観を育み、社会人・職業人として自立していく力を培うためのしくみです。特に、高校では卒業後の進路希望が進学か就職にかかわらず、インターンシップを体験し、社会や職業に対する認識を深め、自己の将来について考えてみることを目的に積極的にインターンシップを導入しています。

インターンシップに参加した生徒は毎日、自分が行った仕事の内容、進捗の程度、目標の達成度、成果、反省点などを事業所の担当者に報告し、指導やアドバイスを受けます。またインターンシップ終了後には、インターンシップ日誌や自己評価票、報告書を完成させ、学校と事業所に報告します。

県では、平成16年度に「高校生インターンシップ推進事業」を立ち上げ、関係機関の協力をいただきながら、受け入れ事業所の開拓や調整、パンフレット・手引書の作成、県民の皆さんへのPR活動などに取り組んできました。

平成18年度に、県内でインターンシップに参加した高校生は、1793名(25校)、受け入れ事業所数は、800社にも及び体験内容も多岐にわたっています。



護者や学校関係者はもちろん、高校生を受け入れる事業所をはじめとする地域社会など多くの関係者の協力により実施されており、「地域の子どもを地域が育てる」取り組みの一つとなっています。

県内高校生のインターンシップ参加状況

本県でも、高校生を対象として、特定の職業に就くことを見据えた職場体験や職業訓練は、職業科を中心に以前から行われていました。インターンシップという形で「就業体験」が始まったのは、平成11年度からです。平成12・13年度には、専門高校6校を指定し、インターンシップの実践研究が行われました。

その後、専門高校では、学年全員で参加する学校が増えるとともに、普通高校でも勤労観・職業観を育てる教育の中心にインターンシップを位置づける学校が出てきました。

こうした状況を受け、組織的・効率的に学校と受け入れ事業所とを結びつける必要性が高まってきたため、

「日本版デュアルシステム」と「クラフトマン21」

最近では、インターンシップをさらに推し進めた取り組みも行われています。県立農林高校では、平成17年度から3年間、「日本版デュアルシステム」を実践してきました。「日本版デュアルシステム」とは、企業における実習とこれに関連した学校での教育を並行して行い、若者を一人前の職業人に育てることを目的とする新たな人材育成システムです。例えば、農林高校の造園緑地科では、授業の中で造園設計や造園技術の基礎的な知識・技術を学習し、週1日の企業実習では、授業で学習したことを確認したり、先進的な造園技術を身につけたりすることにより、即戦力となる人材の育成を行っています。

また、今年度からは、地域産業界と連携して工業高校を中心に、ものづくりを支える将来の専門的職業人や産業界が必要とする職業人など、ものづくりに関する人材を育てる「クラフトマン21」にも取り組んでいます。

「暮らしやすさ日本一」を目指す本県でも、高校生をはじめとする若者の活躍には大きな期待がかかります。県では、インターンシップ推進事業など多くの高校生が参加する事業をさらに発展させ、一層の効果をあげることができるよう取り組んでいます。

インターンシップに参加した生徒数・事業所数の推移

